

連載コラム



みずき野と
その周辺の
植物と昆虫



第 51 回

ユリとワスレグサの仲間



もとよし ふさお
本吉 総男

2019 年 7 月

ユリといえば、まず思い浮かべるのはヤマユリ。野生の草花の中で女王の風格を持ち、気品と威厳のある姿には誰もが惹かれ^ひます。特に、ヤマユリは守谷市の花に選定されているので、私たち住民の多くは、ヤマユリに特別の親しみを持っていると思います。

2019年6月21日付けの地域新聞社発行「ちいき新聞 取手・守谷版」には、「守谷市の花・山百合の自生地を見守ろう」という記事が載っており、大山山百合の里、大柏神社周辺山林、赤法花天満宮、高野公民館裏がヤマユリの自生地として紹介されています。また、個人宅の屋敷林にもヤマユリの大きな群生地があるようです。また、「守谷山百合の会」の活動で、守谷市内のヤマユリの保護や増殖が行われていることも紹介されています。

今回は、ヤマユリの季節にちなんで、みずき野周辺に見られるユリの仲間を紹介し、併せて、ユリの仲間ではありませんが、ユリによく似た花を咲かせるワスレグサ（カンゾウ、キスゲ）の仲間についても述べることにします。

1 テッポウユリの仲間

テッポウユリは日本固有の植物で、西南諸島一帯に自生していますが、それ以外の地域では園芸植物として栽培されています。花は晩春から初夏に開きますが、促成栽培や抑制栽培の技術によって、一年中花を咲かせることができ、切り花用に栽培されているようです。

テッポウユリは花筒（花弁の筒状の部分）が長いので、鉄砲になぞらえた名ですが、英語ではトランペット・リリーといい、英語名の方がその形状を適切に表しています。



テッポウユリ 6月中旬 第一調整池花壇

シンテッポウユリと思われるユリが近年みずき野町内や周辺で増えています。シンテッポウユリはテッポウユリとタカサゴユリ（台湾に原産し、日本でも各地で繁殖している）との間の雑種で、花はテッポウユリやタカサゴユリと形も大きさもよく似ています。ただし、テッポウユリは初夏まで咲き、タカサゴユリとシンテッポウユリは盛夏に咲くこと、葉がテッポウユリよりタカサゴユリとシンテッポウユリの方が細いことで、テッポウユリと後2種との識別ができます。

くこと、葉がテッポウユリよりタカサゴユリとシンテッポウユリの方が細いことで、テッポウユリと後2種との識別ができます。

タカサゴユリとシンテツポウユリの違いについては、タカサゴユリは花弁の外側に褐色～淡褐色の筋があり、シンテツポウユリの花弁は内側も外側も白色であることで識別できるとされています。しかし、シンテツポウユリと思われるユリの花弁の外側にもわずかながら淡褐色の筋があるものを見たことがあり(残念ながら写真は撮っていませんでした)、両種の厳密な識別にはDNA鑑定が必要と思われます。なお、タカサゴユリとはっきり判定されるものはみずき野



シンテツポウユリと推定 8月中旬 5丁目遊歩道

周辺では見たことがありません。

テツポウユリは通常鱗茎(園芸では球根^{りんけい}という)で育てますが、種子を播いても、1~2年で花がつくといわれています。タカサゴユリとシンテツポウユリは種子を播くと1年で花が咲くので便利な植物ですが、自然の中で増えすぎることも懸念されます。

しらゆり
白百合という名称は白いユリの総称ですが、

中でもテツポウユリは純白で白百合と呼ばれるにふさわしい花と思います。清純な感じのする花なので、切花として冠婚葬祭によく使われます。

西洋では白いユリを聖なる花としているようです。レオナルド・ダビンチの名画「受胎告知」には純白のユリが描き込まれています。大天使ガブリエルが聖母となるマリアに懐妊を伝える場面で、白百合が大天使の顔のすぐ前に描き込まれています。また床にも白百合の花が散らばっています。テツポウユリではありませんが、マドンナ・リリーと呼ばれている、地中海沿岸に自生するユリだそうです。



レオナルド・ダビンチ「受胎告知」Wikimedia よりダウンロード

トリアンファーターは、^{りんけい}鱗茎(球根)によって増える植物の育種を専門とし、世界の各地に育種拠点をもち Royal Van Zanten 社がテッポウユリとオリエンタルリリーを交配して育成した品種です。オリエンタルリリーは東洋のユリという意味ですが、ヤマユリやカノコユリなど、多くは日本固有のユリ一般を指す名称です。ただしトリアンファーターの育成にはどのようなユリが片親として使われたかはわかりません。トリアンファーターは園芸上テッポウユリの仲間に入られています。

トリアンファーターは、本コラム [第 43 回「花壇の花\(4\)」](#)にも載せています。このときは「トリアンファーターと思われる」と書きましたが、花の形や模様、葉の形などからトリアンファーターに間違いありません。以前のもと同じ株かもしれませんが、大きく育ち、花付きも良くなっておりますので、再度写真を載せました。



トリアンファーター 7月上旬 第2調整池花壇

2 スカシユリ

スカシユリの説明と写真は、[第 43 回「花壇の花」\(4\)」](#)にも載せていますが、主要なユリの仲間なので、ここに再度載せることにします。

スカシユリは、花が上向きに咲くのが特徴です。日本に在来するスカシユリの仲間には、スカシユリ、ミヤマスカシユリ、ヤマスカシユリ、エゾスカシユリがありますが、通常目にするのは園芸品種です。それらはスカシユリや近縁のエゾスカシユリ^{かひ}その他との交配などによって育成されたものです。原種のスカシユリは花被が橙黄色で赤褐色の斑点がありますが、園芸品種の花色は白、黄、赤、紫など様々で、美しい模様の入るものもあります。

右の写真は、取手市市之代地区の草むらの中に自生していたスカシユリの園芸品種です。なぜこのような場所に生えていたのかわ



スカシユリ(園芸品種)
6月上旬 取手市市之代地区

かりませんが、濃厚な赤色の花が輝いていました。もう 10 年以前のことで、今はありません。

3 オニユリ

オニユリは北海道から九州までの日本列島と中国および朝鮮半島に分布するユリで、古い時代に中国から入ったものが日本に広がったと推定されています。山谷に自生していますが、花壇にも植えられています。しかし鑑賞用よりもむしろ鱗茎（ユリの鱗茎を一般にはゆり根という）を食品として利用するためにも栽培されています。次に述べるヤマユリのゆり根も食料にしますが、ヤマユリが減っている現状ではもったいない気がします。

オニユリの名の由来は、強壮な植物であるからと書かれている記事もありますが、私としては、花の色が鬼の赤ら顔に似ているからではないかと勝手に推測しています。英語ではタイガー・リリーと呼ばれています。

オニユリは葉腋（葉が茎にくっついている場所）に珠芽（おかご）を生じます。オニユリにたいへんよく似た種にコオニユリがあります。しかしコオニユリは珠芽を生じないので、両種は容易に識別できます。



オニユリの花(左)と珠芽(右) 7月中旬 第1調整池花壇

4 ヤマユリ

ヤマユリは日本の固有種で、前述のように、守谷市の花に選定されています。山野に比較的普通の植物ですが、栽培もされて切り花にもされますが、強烈な匂いを発するので、狭い部屋に飾るのはためらわれます。また、花粉が服につくと容易には取れないので、活ける前に雄

しべを除去することが多いのですが、雄しべのない花はなんとなく不自然で、あわれな感じがします。私はやはり屋外でみるほうが良いと思っています。

右の写真は数年前に山富園の北斜面に咲いていたものですが、現在はここには見られません。現在は、7 丁目の文化財公園に文化財公園里山の会によって、ヤマユリが植えられ、保全管理されています。



ヤマユリ 7月下旬 山富園北斜面

主としてヤマユリ、カノコユリなど日本産のユリをベースに、他のユリと交配して育成された品種はオリエンタル・ハイブリッド・リリーと呼ばれていますが、中でも品種カサブランカは最もよく知られています。



カサブランカ 7月上旬 わが家の庭

万葉集には百合を詠み込んだ歌がいくつかあります。百合を「さ百合」ともいいますが、同じ意味です。

つくばねの さ百合の花の 寝床にも 愛しけ妹ぞ 昼も愛しけ

防人（万葉集 4369）

常陸國の人で、上丁（防人の集団を統率する者）大舎人部千文が詠んだ歌。

（筑波の嶺の百合の花のように、夜の寝床の中でも可愛い妻は、昼間も可愛くてたまらない。）

よ 詠まれたさ百合は、筑波周辺に多いヤマユリとされます。

5 ワスレグサの仲間

ワスレグサの仲間は、以前はユリ科に分類されていましたが、DNA 配列の分析によって、ススキノキ科に編入されました。ススキノキとはまるで姿が違うので、どうもしっくりしません。

野生のワスレグサには、ヤブカンゾウ、ノカンゾウ、ヒメカンゾウ、ニッコウキスゲ、ユウスゲなどがあります。これらの花はユリの花に似ていますが、すべて一日花で、ほとんどは朝咲き始めて夕方にはしぼんでしまいますが、ユウスゲの花は夕方開き、朝しぼみます。

カンゾウやキスゲを総称するワスレグサはすでに万葉集の中でも使われている古い名称です。ワスレグサは、身につけると、思い出したくないことを忘れるという、古代中国の故事に由来する和名です。

わすれぐさ ひも わが紐に付く香具山の ふ 古りにし里を 忘れむがため
おおとものたびと
 大伴旅人 万葉集(334)

大伴旅人が太宰府に赴任した時の歌。

(懐かしい香具山のある古郷を忘れようとわすれぐさを紐に付けた。)

野生のワスレグサの仲間は、花が美しいので栽培もされます。また、ワスレグサの仲間からは、多数の色とりどりの栽培品種が育成されています。ヘメロカリスはワスレグサ属の学名ですが、園芸ではワスレグサの栽培品種をヘメロカリスと呼んでいます。

ヤブカンゾウは、北海道から九州までの日本列島と、中国に分布しており、有史以前に中国から渡ってきたという説があります。ワスレグサの仲間のうち、唯一八重咲きの花を咲かせます。種子はつかず、ほふくけい 匍匐茎(地面をはって伸びる茎)によって増えます。みずき野周辺では、道ばたの草むらの中によく見かけます。



ヤブカンゾウ 7月中旬 取手市貝塚地区

ノカンゾウは、本州、四国、九州に分布する日本固有種です。ヤブカンゾウと同様、種子はつかず、匍匐茎^{ほふくけい}によって増えます。みずき野周辺では、道ばたの草むらや、田のへりに自生しています。



ノカンゾウ 7月下旬 取手市貝塚地区

みずき野町内の花壇には、ワスレグサの栽培品種（ヘメロカリス）と思われる花をいくつか見かけます。



ヘメロカリスと思われる花 7月上旬 文化財公園石垣下（左）および第1調整池花壇（右）

ニッコウキスゲ（ゼンテイカが正式の和名）は関東地方では高原に自生しています。しかし、第2調整池の北側に隣接する郷州里山には、郷州里山の会の方々によって、ニッコウキスゲが育てられています。たまたま散策で訪れたとき、ニッコウキスゲの美しい花が見られましたので写真に撮りました。



ニッコウキスゲ 5月下旬 郷州里山

ちなみに、みずき野町内や周辺には見られませんが、ユウスゲとムサシノキスゲについても触れておきたいと思います。

ユウスゲはある方からいただいた株を鉢に植えておいたところ、一日一輪ずつ数日にわたって花を見ることができました。ワスレグサの仲間でも、最も美しく、上品な花です。前述のごとく、夕方咲き始めて、朝にはしぼんでしまう一日花で、いささか^{わび}侘しい感じもします。

ニッコウキスゲの群落は関東地方では高原に行かないと見られませんが、ムサシノキスゲの群落は東京都府中市の^{せんげんやま}浅間山公園で見ることができます。^{せんげんやま}浅間山公園は多磨霊園近くの標高80メートルほどの、高木や低木に覆われた小さな山です。ここは、ムサシノキスゲの唯一の貴重な自生地です。ムサシノキスゲはニッコウキスゲの変種で、低地の乾いた地に適応したキスゲだそうです。



ユウスゲ 7月上旬 わが家の庭

みずき野周辺の花ではありませんが、東京近郊で見られる非常に珍しいキスゲなので紹介しました。



ムサシノキスゲ 5月中旬 ^{せんげんやま}府中市浅間山公園